第3章　ソーシャルメディアは敵か味方か

文責　山本茉於

フィルターバブルという孤立現象（９４〜９８）

* ソーシャルメディアは地理的条件を超えて、似たような意見を持つ人々が、同じ主張をお互いに繰り返していくうちに、さらに自分たちの意見や偏見を強める傾向を持つ。（９８）
* ネットは、人々をつなげて相互理解を深める一方で、決まった輪の中で、お互いの殻、いわば「フィルターバブル」の中に閉じ込める傾向が助長されやすい。（９８）

自分の見たいニュースだけが見られる「ニュースの個別化」（９８〜１０１）

* 保守派の人々のフェイスブック上には保守系の書き込みや、ニュースが多くなり、リベラル派のフェイスブック上にはリベラル系の書き込みや、ニュースが多くなる。→個人の考えや好みに応じたニュースが表示される。

海岸都市に集中する既成メディアとデジタル化（１０１〜１０７）

* アメリカでは、従来の新聞媒体の衰退で、もともと保守的な土地柄である内陸部の新聞社が次々に倒産する一方、メジャーなジャーナリズムの拠点が、リベラルな読者が多い海岸沿いの都市に「押し出されている」ので内陸部に住む市民は、地域のニュースを伝えてきた新聞がなくなることで、ネットのニュースを頼ることになり、その結果、事実が検証されてないニュースにさらされる可能性がより大きくなっている。（１０７）

偽ニュースに関して（１０７〜１２２）

* 偽ニュースにおいて一番肝心な事は「本物に見える事」であり、例えばいかにもクリントンが関与しているような偽ニュースは共和党支持者に特に面白がられ、クリック数は面白いほど増えた。（１０８）
* なぜ偽ニュースは広がるのか→偽ニュースは、匿名のボットによりさらに大量に拡散され、右翼でメジャーなニュースサイトの「ブライドバード」やラジオ番組の「インフォウォーズ」によってさらに広まるため。また、閉ざされたネット空間で、似たような意見を持つ人たちが、チャットを繰り返していくうちに騒ぎがエスカレートするから。（１１５）
* ニューヨークとドイツで行われた調査（１１６）によると、保守層は批判的傾向が弱く、ニュースが自分たちの視点にあっていればそれでよく、偽ニュースは自らの偏見を裏付けるための拠り所である。（１１７）→偽ニュースは保守層で広がりやすい。

→しかし、リベラル層の間でも偽ニュースが拡散している。（１１９）

↓

何が真実で何が偽のニュースであるのか、混乱は広がるばかりである。（１２０）

* ソーシャルメディアは独特のアルゴリズムを使ってニュースを濾過するので、偏った内容の記事が表示されやすい。→センセーショナルなニュースを見た時には、複数のメディアで本当に起きているのかを確認しなければ、偽ニュースはいつの間にか一人歩きし、流言飛語のデマゴギーとなって社会に多大な影響を与えかねない。（１２２）

求められるニュースの読解力（１３２〜１３５）

マスコミ情報に慣れ親しんできたアナログ世代はサイトなどの信用度を隅々までチェックするが、ソーシャルメディアに慣れ親しんできたデジタルネイティブ世代はしない人がほとんど。（１３４）

課題…現在はアナログ世代とデジタルネイティブ世代が共存しているが、完全にアナログ世代がいなくなれば、デジタルネイティブ世代の住む世界はどうなっているのだろうか。（１３５）